

調査研究終了報告書

研究分野：保健

調 査 研 究 名	がん検診受診率向上に向けた効果的方策の検討
研究者名（所属） ※ ○印：研究代表者	○川原明子、中島淳一、櫻井利彦、平田輝昭（保健環境研究所）、 枝光みゆき（県庁保健医療介護部健康増進課）
本 庁 関 係 部 ・ 課	保健医療介護部健康増進課
調 査 研 究 期 間	平成25 年度 — 平成26 年度 （2年間）
調 査 研 究 種 目	1. ■行政研究 □課題研究 □共同研究（共同機関名： ） □受託研究（委託機関名： ） 2. ■基礎研究 □応用研究 □開発研究 3. □重点研究 □推奨研究 □I S O推進研究
福岡県総合計画	大項目：いきいきと暮らせる安全・安心な社会づくり 中項目：健やかに暮らせる社会づくり 小項目：県民の健康くらしづくり
福岡県環境総合ビジョン（第三次福岡県環境総合基本計画）※環境関係のみ	柱： テーマ：
キーワード	①がん検診 ②受診率 ③対策
研 究 の 概 要	
1) 調査研究の目的及び必要性 現在、がんは県民の死亡原因の第1位である。近年の診断と治療の進歩により、一部のがんについてはがん検診による早期発見・早期治療で死亡率を減少させることが可能であることが確認されている。しかしながら当県における検診受診率は低迷しており、また、市町村が実施する検診の受診率には大きな格差が存在している。当研究は「県内市町村のデータを用いた受診率に影響を与える要因の検討」を行うことにより、効果的ながん検診受診率向上策を提言することを目的とする。	
2) 調査研究の概要 がん検診受診率が高い市町村と低い市町村についてがん検診の申込み方法や実施体制について聞き取り調査を行った。その際、相違がみられた点について調査項目を作成し、県内60市町村にアンケート調査を行った。その調査結果と、健康増進課が実施している市町村のがん検診提供体制調査及び特定健診実施体制調査、地域保健・健康増進事業報告におけるがん検診受診者数を用いて、重回帰分析を行った。	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。） 公衆衛生学会等を通して還元することにより、市町村での科学的根拠に基づいたがん検診受信率向上対策の実施が期待される。	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 がん検診受診率向上は、がんの早期発見による生存率向上・健康寿命の延伸に寄与する。	
5) 調査研究結果の独創性、新規性 がん検診受診率向上策を検討した報告は、いくつか存在するものの、そのほとんどは、特定の自治体内の取り組みについて検討したものである。本研究は福岡県内60市町村を対象とした分析を実施した。更に、保健所等を通して回答率100%のアンケート調査を実施し、住民の状況や医療機関資源が異なる市町村においても共通して認められる受診率向上施策について明らかにした。	
6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性） 研究成果については、学会や所報等で公表し、市町村のがん検診受診率向上に関する行政施策に役立つものと考えられる。	